

令和5年度「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」自己点検・評価表

点検項目	基準	評価	根拠資料	評価理由
1. プログラムの履修・修得状況	すべての対象科目の履修者率と履修者基準の単位修得率がいずれも 90%以上 95%未満である	A	学内資料 (非公表)	単位修得率が基準を大きく上回った。
2. 学修成果	すべての対象科目の4クラス全体の平均点が成績評価の「良」の区分に入る	A	学内資料 (非公表)	基準を大きく上回った。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	すべての対象科目の「科目達成度の点検」の自己評価平均が4点以上である	A	令和5年度の情報リテラシー、ものづくり実験実習J・C、系導入セミナーの「科目達成度の点検」の集計結果	全ての科目でほぼ4点となった。
4. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修率が 90%以上 95%未満である	A	教育課程表	本校が指定した科目はすべて必修科目で学生の履修を推奨する仕組みとなっており、基準を大きく上回った。
5. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	学外アンケートの情報リテラシーに関する質問への肯定的な回答が 75% 以上 80%未満である	-	-	学外アンケートは令和7年度に実施予定。
6. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界から意見を聴取し、学校全体で情報共有している	A	R5 運営諮問会議資料	1学年からプログラムを実施することに関して、好評であった。
7. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業アンケートの中で、全ての対象科目の“この授業に意欲的に取り組んでいますか”の質問への回答について、いずれも4クラス全体の評価点(5段階評価で5が最高)が4以上である	A	令和5年度授業アンケート	全ての科目で4以上となり、積極的に学んでいることが分かった。

評価

- A：点検項目の基準を大きく上回った、B：点検項目の基準をほぼ達成した
 C：点検項目の基準を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している
 D：点検項目の基準を達成できなかったことに加え、達成に向けた対応策が立案されていない